賛同署名についてのコメント

宮澤・レーン事件を考える会事務局

１．北海道大学への要請を６月の幹事会で確認（要請文と賛同依頼等）し、７月16日の「レーン夫妻を語る集い」で参加の方々に要請趣旨を説明しつつ、賛同署名の集約に入りました。わずか２か月足らずで５００筆に近い賛同署名が寄せられており、うち一言を記載してくれた方は２５０名を越えています。

２．署名の方の住所地は、道内・札幌中心ですが、府県の各地から広く寄せられています。

３．北大関係の教官や、卒業生が大変多く（北大関係の記載をしていない方も多い）なっていることは、北大の歴史に関わる事件から当然と言えますが、同時にまた賛同はそれ以上の市民的広がりも持っているといえます。

４．北光教会やカトリックの関係者の賛同も、レーン夫妻に関わる事件の成り立ちを物語っています。

５．北大に再任用後は、事件を語らなかったレーン夫妻でしたが、直接の教え子や、謦咳に接した方々の賛同も多く、私どもの事件の発掘、集い開催、冊子発行で初めて事件を知った方もいらっしゃいます。

６．北大総合博物館での特別展を見て、事件を初めて知ったと思われる方も、賛同を寄せています。

７．一言の内容をここで再述、詳述は不要と思いますが、宮澤・レーン事件は冤罪としての（＝国家犯罪）認識に触れている文章もあります。しかし、それ以上に史実＝歴史的事実を踏まえ、事件を風化させないで語り継ぐ、未来志向での北大の対応に期待をしているという事が最大公約数と思われます。

８．以上を踏まえての、案内板とモニュメントの設置要請であり、賛同した（賛同者を募る活動は９月まで継続を予定）方々は、北大の納得できる対応を切に願っていると思われる事を申し添えて、真摯なご検討をお願いするものです。